

**第5回渡良瀬遊水地エリア検討部会
議事要旨（案）**

【概要】

日 時	平成 30 年 9 月 21 日（金） 15：00～16：30
場 所	利根川上流河川事務所渡良瀬遊水池出張所 4F 説明ホール
議 事	<p>(1) 前回会議の意見について</p> <p>(2) 「渡良瀬遊水地エリア エネット拠点 100 選（仮）」について</p> <p>(3) テーマプロジェクト（ツーリズム）について</p> <p>(4) テーマプロジェクト（田んぼの生きもの調査）の試行について（報告）</p> <p>(5) 「渡良瀬遊水地エリア エコロジカル・ネットワーク形成アクションプラン（案）」について</p> <p>(6) 今後の展開・進め方（案）について</p>
配布資料	<p>1. 議事次第</p> <p>2. 出席者名簿</p> <p>3. 出席者席配置図</p> <p>4. 検討部会規約・名簿</p> <p>5. 資料</p> <p>資料 1： 現地視察資料</p> <p>資料 2： 前回会議の意見</p> <p>資料 3-1： 「渡良瀬遊水地エリア エコネット拠点 100 選（仮）」およびテーマプロジェクトについて</p> <p>資料 3-2： 渡良瀬遊水地エリア エコネット拠点リスト（案）およびマップ（案）</p> <p>資料 4： 渡良瀬遊水地エリア エコロジカル・ネットワーク形成アクションプラン（案）</p> <p>資料 5： 今後の展開・進め方（案）</p> <p>6. 参考資料</p> <p>参考資料 1： 第 4 回渡良瀬遊水地エリア検討部会議事要旨</p> <p>参考資料 2： PR シート（案）</p> <p>参考資料 3： 渡良瀬遊水地エリアで実施された試行エコツアーおよびテクニカルツアーの実施報告</p>
出席者	【第 5 回渡良瀬遊水地エリア検討部会 配付資料「出席者名簿」のとおり】

会議風景



議長挨拶

- エコネット拠点の中から 2 つの候補地を視察した。拠点をどう線につなげて面的に広げていくかがこの検討部会に課せられた使命である。
- コウノトリの野外繁殖は第二ステージになったとの話もある。関東地方ではこれからのだが、先駆けとして渡良瀬遊水地周辺にコウノトリが訪れるようになっている。機運を捉えて、さらに湿地の保全・再生、ワイズユース、交流学习も進めて行きたい。

(1) 前回会議の意見

〈事務局より配布資料の通り報告〉

(2) 「渡良瀬遊水地エリア エコネット拠点 100 選 (仮)」について

〈事務局より配布資料の通り報告〉

- 一番の根底にある歴史的な視点があいまいにされている。渡良瀬遊水地がなぜできたのか、昔はどうだったのかを踏まえないと、正しく伝わらない。そのあたりからきちんと考えていただきたい。
- 拠点へ行くための動機を与えるようなものと、拠点へ行って認識や学習を深めるもの、と二つ位置づけがあるので意図を明確にした方がいい。
- 来訪目的に焦点を当てた構成もある。例えば歴史コースでは旧谷中村、藤岡の田中正造の墓、遊水地内の延命院、雷電神社、排水機場跡などのセット。自然では、四季折々で一通りコースを回ると見られる動植物のセットなど。
- 100 選を入りに、派生的に他の場所や詳しい情報にアクセスできるイメージが良い。
- 名称だと、ひらがなを使って「わたらせエコネット 100」などもある。
- ポイントごとに数種類用意されたカードを集めるというやり方もある。水にぬれても平気な少し丈夫なカードだと、持ち帰って学習などにもいろいろ活用できる。
- QR コードを配しておいて追加の情報にアクセスできるようにしておくといよい。
- 食の拠点では、川魚だけでなく様々な農産物が活用できる。歴史、自然をしっかり勉強したうえでお腹も満たして、ワイズユースと交流ができるようになればよい。

(3) 「テーマプロジェクト（ツーリズム）」について

〈事務局より配布資料の通り報告〉

- 100選の中でもコアになる拠点をいくつか設定して、そのコア拠点を中心にどんなストーリーができるのかを考えて行けると良い。自治体でそれぞれコアなところ、サテライトになる拠点をイメージしていくことでストーリーができてくる。
- 観光拠点、ツーリズム、保全の現場は非常に近いところにあると思う。
- どうしても渡良瀬遊水地を中心に考えてしまうが、周辺自治体にも魅力が多い。コウノトリも周辺の豊かな自然があって、農地がしっかりしていて採食できることが重要。そういったことから視野を広げていけるようなツアーが良い。

(4) テーマプロジェクト（田んぼの生きもの調査）の試行実施について

〈事務局より配布資料の通り報告〉

- 方法が簡単で地元の人も専門家の指導のもと継続できるのではないかと。地元にも変化の実感があるし、どこに問題があるか、どう改善すればいいかを地元の人に考えていただけるので、非常にいい。
- 市民を交えた調査が関東全体でも計画されているようなので、そういったものをこのエリアでも取り組みながら、うまくコウノトリと共生できたらいい。
- 田んぼの生きもの調査を渡良瀬エリア全体へ広げていくことが重要。遊水地だけでは大型のコウノトリの餌量を賄えないので、遊水地周囲の水田の生物多様性を向上させないと定着は難しい。田んぼや農地の生物量を調べることで田んぼの価値、農地の価値が分かって、そこで採れる各地の食について、というところにもつながる。
- 野田市や福井市で放鳥しているがなかなか定着に至らないのは適当な採食場がないからだと考える。渡良瀬遊水地では、やはり鳥の採食資源が少ない。コウノトリが飛来しても一時的に滞在するだけで定着しないのは、採食場所の問題だろう。
- 遊水地の再生では特に餌生物を増やすことが重要。田んぼの他に川、湖、湿地など採食場の多様性も必要。夏になり植物の丈が高くなるとほとんど農地では採食しないし、遊水地でも採食行動をするがほとんど捕獲できない。遊水地内では人為攪乱型実験地などもあるので、知見を蓄積していければよい。
- 谷中湖の干し上げでできる浮島には魚がたくさん残っているようなので、採餌環境として重要。飛来したコウノトリは、冬季に餌が無いことで谷中湖へ飛んで行って採食していた。谷中湖干し上げ時期の生物相について基礎資料があると良い。
- この取組の土台は、遊水地を中心とした田んぼの環境、水辺の環境としてどういうものができているのだろうかということ。
- 関東エリアで進められている共通フォーマットによる標準的な調査を渡良瀬エリアでも取り組んでいけるとよいと思う。そうすると関東一円の生態系、生物のポテンシャルが見えてくる。

(5) 渡良瀬遊水地エリア エコロジカル・ネットワーク形成アクションプラン（案）

〈事務局より配布資料の通り報告〉

- 一番大事なのはアクションプランが絵に描いた餅にならないということ。具体的な事業にどう落とし込んでいくか、ということをそろそろしっかり考えていくべき。
- 取組みの場所としては、拠点が絞り込まれつつあるが、様々な人が集まって何ができるのか、そういう場所が必要、一緒に行動できる場所が必要だと思う。
- 実際に取り組んでいく主体、実際に動く人が誰なのか、調整機能をどこが担うか、そういうことも盛り込んでいく必要が出てくる。
- 湿地の保全・再生を基盤にしながらワイズユース、さらには交流学习に結び付けていくということ、基本は湿地再生、保全・再生が根本。その中には歴史的な視点も当然ある。
- どういう人をターゲットにして呼び込むようにするのか、それと環境がストーリーでつながると非常に面白くなる。それに地元にお金が落ちる仕組みがセットになると面白い取組みになると感じた。
- 第2調節池で進んでいる湿地保全・再生事業がどうなるかで遊水地の将来像が大きく変化すると思う。例えば去年工事した人為攪乱型実験地はかなりインパクトある。それをまた環境教育などに活かせればより良くなる。

(6) 今後の展開・進め方（案）

〈事務局より配布資料の通り報告〉

- 自治体でコアになるような場所があると思う。そこにサテライト拠点をうまくつなげていくこと、そこから他の自治体ともうまく乗り入れていくようなことができれば、周遊性も増してくる。
- 今後、保全・再生、ワイズユース、交流学习の各テーマに沿ったテーマプロジェクトを展開したい。また、その取組の実施拠点についても選定していく必要がある。ここに参加している各主体も、それぞれ役割を認識して一層積極的に取り組んでもらえると有難い。
- 自治体を中心となって、地域の企業の活動を後押ししながらエコロジカル・ネットワークの活動、保全・再生に結び付けて行けるような参加を促していただけるといい。

〈事務局より意見照会の依頼〉

- 本日頂いたご意見を元に整理をして、市町の皆様へそれぞれ意見照会をお願いしたいので、ご協力をお願いします。

以上